

「2019年10～12月期 中小企業 景気動向調査」 結果報告

一業況DI、2013年6月以来のマイナス20台一

一般財団法人しんきん経済研究所は、県西部地域の中小企業を対象に行なった「中小企業景気動向調査」の調査結果をまとめましたので、ご報告します。

1. 調査概要（調査／しんきん経済研究所、協力／浜松商工会議所）

調査時期	2019年12月2日～9日
調査対象	静岡県西部地域の中小企業 658社
回収状況	回収数 630社（回収率 95.7%）
調査方法	調査表を用いた面接聴取（遠州信用金庫、浜松いわた信用金庫に委託）

2. 調査結果

① 2019年10～12月期の業況

県西部地域の中小企業の業況判断指数（DI＝「良い」とみる企業の割合から「悪い」とみる企業の割合を引いた数値）は全産業ベースで－20.1となり、2019年9月の前回調査（－9.4）と比べて10.7ポイントの悪化となった。このマイナス20台は、2013年6月以来のマイナス水準である。米中貿易摩擦の長期化が懸念される中、製造業の更なる悪化で、景気の減速感が強まっている。

② 2020年1～3月期の見通し

次回の業況DIは0.7ポイント改善の－19.4を見込む。

③ 主な業種別の動向

業種	調査数	業況DI			動向
		前期	→ 今期	→ 次期見通し	
全体	630	-9.4	-20.1	-19.4	業況DI、2013年6月以来のマイナス20台。
製造業	322	-17.3	-29.6	-28.3	繊維以外の製造業の落ち込みにより、業況DI、マイナス30近くまで悪化。
二輪車部品製造	49	-25.0	-32.7	-20.4	売上減少により、業況DI、4四半期連続のマイナス水準。
自動車部品製造	73	-15.5	-27.4	-27.4	地元自動車メーカーの検査対応により、業況DI、4四半期連続の悪化。
機械部品製造	58	-3.5	-34.5	-39.7	設備投資の停滞で、業況DI、2013年3月以来のマイナス30台。
楽器部品製造	21	-35.0	-40.0	-30.0	業況DI悪化、8四半期連続のマイナス水準。工場の老朽化が課題。
繊維製造	25	-25.0	-24.0	-28.0	春夏向けの生産が本格化し、業況DI、2四半期ぶりの改善。
製茶製造	15	-18.8	-33.3	-33.3	リーフ茶需要の低迷で、業況DI、5四半期連続のマイナス水準。
製材製造	18	-25.0	-27.8	-33.3	業況DIは悪化し、3四半期連続のマイナス水準。
卸売業	74	-12.7	-21.6	-18.9	仕入価格上昇により、業況DI、2四半期ぶりの悪化。
小売業	61	-18.3	-29.5	-29.5	消費増税の影響もあり、業況DI、2四半期ぶりの悪化。
建設業	71	19.1	7.0	7.0	年度末に向けて工事が堅調であり、業況DI、10四半期連続のプラス水準。
不動産業	45	8.9	0.0	4.5	業況DI、プラス水準を解消。ただし、商品物件は不足。
飲食・宿泊・レジャー等	20	9.5	-20.0	-25.0	業況DI、大幅悪化で4四半期ぶりにマイナス水準、東京オリンピックに期待。

本件のお問い合わせ先

一般財団法人 しんきん経済研究所 / 澤柳 / TEL053-452-1510

〒432-8036 / 浜松市中区東伊場2丁目7-1 浜松商工会議所5階